

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公表番号】特表2009-530289(P2009-530289A)

【公表日】平成21年8月27日(2009.8.27)

【年通号数】公開・登録公報2009-034

【出願番号】特願2009-500459(P2009-500459)

【国際特許分類】

A 01 N	55/02	(2006.01)
A 01 N	25/10	(2006.01)
A 01 N	25/04	(2006.01)
A 01 N	43/70	(2006.01)
A 01 N	51/00	(2006.01)
A 01 N	47/04	(2006.01)
A 01 P	3/00	(2006.01)
A 01 P	7/04	(2006.01)
A 01 N	25/30	(2006.01)
C 08 L	35/00	(2006.01)
C 08 K	5/00	(2006.01)

【F I】

A 01 N	55/02	G
A 01 N	25/10	
A 01 N	25/04	
A 01 N	43/70	
A 01 N	51/00	
A 01 N	47/04	1 0 1
A 01 P	3/00	
A 01 P	7/04	
A 01 N	25/30	
C 08 L	35/00	
C 08 K	5/00	

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月12日(2010.1.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1種の無水琥珀酸含有樹脂及び少なくとも1種のアミンの反応生成物を含んでなる水溶性分散剤、並びに

少なくとも1種の非水溶性農薬：

を含んでなる農業用組成物。

【請求項2】

少なくとも1種の無水琥珀酸含有樹脂が、無水ポリイソブチニル琥珀酸、スチレン無水マレイン酸、それらの誘導体及びそれらの組み合わせ物：よりなる群から選択される、請求項1の組成物。

【請求項 3】

少なくとも 1 種の無水琥珀酸含有樹脂が少なくとも 1 種のアクリル酸又はアクリル酸誘導体を含んでなる、請求項 1 の組成物。

【請求項 4】

少なくとも 1 種の無水琥珀酸含有樹脂が、メチルアクリレート、アクリロニトリル、それらの誘導体及びそれらの組み合わせ物：よりなる群から選択されるモノマーの生成物を含んでなる、請求項 1 の組成物。

【請求項 5】

少なくとも 1 種のアミンがポリエーテルモノアミンを含んでなる、請求項 1 の組成物。

【請求項 6】

少なくとも 1 種のアミンがジメチルアミノプロピルアミンを含んでなる、請求項 1 の組成物。

【請求項 7】

農薬が殺虫剤、除草剤又は抗カビ・真菌剤である、請求項 1 の組成物。

【請求項 8】

分散剤が約 5,000 ~ 約 20,000 の分子量を有する、請求項 1 の組成物。

【請求項 9】

分散剤がアミド酸又はポリアミド酸反応生成物である、請求項 1 の組成物。

【請求項 10】

少なくとも 1 種の無水琥珀酸含有樹脂及び少なくとも 1 種のアミンの反応生成物を含んでなる第 1 の成分を提供し、

少なくとも 1 種の農薬を含んでなる第 2 の成分を提供し、そして

第 1 の成分及び第 2 の成分を接触させる工程：

を含んでなる工程により生成される農業用組成物。

【請求項 11】

第 1 の成分及び第 2 の成分を接触させる工程が第 1 の成分及び第 2 の成分を液体の連続相中で接触させる工程を含んでなる、請求項 10 の組成物。

【請求項 12】

少なくとも 1 種の無水琥珀酸含有樹脂及び少なくとも 1 種のアミンの反応生成物を含んでなる水溶性分散剤並びに少なくとも 1 種の非水溶性農薬を含んでなる濃厚組成物を、水で希釈して、組成物水溶液を形成し、そして基体 (s u b s t r a t e) に組成物水溶液を適用する工程：を含んでなる、基体を処理する方法。

【請求項 13】

分散剤がアミド酸反応生成物であって、アミド酸反応生成物が中和されたカルボン酸基を含んでなる、請求項 12 の方法。

【請求項 14】

分散剤がポリアミド酸反応生成物であって、ポリアミド酸反応生成物が少なくとも 1 個の中和されたカルボン酸基を含んでなる、請求項 12 の方法。

【請求項 15】

分散剤がポリアミド酸反応生成物であって、ポリアミド酸反応生成物が中和されたカルボン酸基を含んでなる、請求項 12 の方法。